

## MB&F M.A.D. ギャラリーにて、ファビアン・エーファナーの驚異の世界を公開

MB&F M.A.D. ギャラリーでは、スイス人アーティスト、ファビアン・エーファナーを迎え、その素晴らしい写真の数々を紹介する。ファビアンは見る者の心や気持ちに強く訴えかける写真を創造することで、アートと科学を融合した独特な世界を写し出し大きな反響を呼んできた。ファビアンは、波動、求心力、虹色、炎、強磁性流体など、人の目には見えない無数の瞬間を写真に残すため、常に目を光らせている。

M.A.D. ギャラリーで展示するファビアンのアート作品には心底圧倒される。

*Disintegrating* シリーズの 3 枚の写真は、クラシックスポーツカーの爆発する瞬間を捉えたものだ。ファビアンはヴァンテージのロードスタースケールモデルを分解し、部品をひとつずつ、その配置も含めて写真に収めることで、自動車が爆発するまさにその瞬間のイメージを苦心して作り上げた。

*Hatch* シリーズの 3 枚の他の写真は、「車の誕生」をテーマに表現している。ひよこの孵化の写真からヒントを得たファビアンは、生命体が産まれてくる瞬間のように人造物が「産まれる」瞬間を表現したいと考えた。本作品では、命の瞬間を軽妙に、エネルギーに表現するために、フェラーリ 250 GTO が殻を破って「産まれる」瞬間を捉えている。

いずれのシリーズも「車」を素材としたものだが、どちらもコンピューターで処理を施したイメージを、あたかも実物を映した写真のように見せている点で共通している。

ファビアンは言う。「3D レンダリングのもつ、混じりけのない、くっきりとした画像は、いつも僕の心を掴んで離しません。そこで、このようなタイプの美しいイメージと写真のもつ真の強さを結びつけてみようと思ったのです。これらの画像は時間を捉えるという点でも共通しています。Hatch シリーズは時間を止め、Disintegrating シリーズでは瞬間を創作しました」。

ファビアン・エーファナーの作品は、2013 年 11 月 27 日より 2014 年 5 月までジュネーブの M.A.D. ギャラリーで展示される。

### **Disintegrating** について

一般的に、写真はある一瞬を切り取るものであるのに対し、*Disintegrating* シリーズはいずれも一瞬を創造したもの、とファビアン・エーファナーは語っている。「このイメージの中で皆さんが目にしていないものは、実際の世界に存在したことはありません」。エーファナーはこのように述べる。「車が粉々に砕け散るように見えるモノは、実際のところ、何百枚もの個別のイメージを組み合わせて人工的に作り出した「瞬間」です。一瞬を創造する、というのはユニークな喜びに満ちています... 一瞬を凍りつかせることは感覚を麻痺させるのと似ています。」

この写真から見て取れるのは、爆発したクラシックスポーツカーの姿だ。深い感動を残す印象的なガルウイングドアのメルセデスベンツ 300 SLR Uhlenhaut Coupé (1954)、流線型が象徴的な黒のジャガー E-Type (1961)、そして、官能的な曲線美に心を奪われるフェラーリ 330 P4 (1967)。

ファビアンはまず、個々の部品が収まるであろう位置を紙の上にスケッチする。そして、モデルをまさに「ばらばら」に解体していくのだ。ボディから小さなネジに至るまで、それぞれの車には 1000 個以上の部品がある。

その後、最初のスケッチをもとに、細い針と糸を使い個々の部品を決まった位置に置いていく。細心の注意を払いながら各ショットのアングルを決めたあと、それぞれに適した照明を設置し、部品を写真に収める。*Disintegrating* のイメージを作り出すために、彼は気の遠くなるような膨大な枚数の写真を撮った。

そして無数の写真を合成し、1 枚の写真を製作するための後処理に掛けられる。基準点となるのは車輪。Photoshop を使いあらゆる部品を 1 枚のレイヤー(マスク)へと落とし込み、切り取り、最終イメージへと貼り付けていく。

「この写真はこれまでで最も遅い高速イメージと言えるでしょう」ファビアンは言う。「あるほんの一瞬を切り取ったようなイメージを作成するために、2 か月を費やしました。どのモデルも複雑な構造で、車の解体にはそれぞれ 1 日以上かかっています。とはいえ、少年時代にだれもが夢中になった世界です。細部を分析する過程は楽しくもあり、解体ではさまざまな発見がありました。タマネギの皮をむくような感じですね。」

しかし、彼はこうも述べている。「一番手強かったのはカメラ、レンズ、そして照明のセッティングでした。美しい写真が撮れないと、それはもうストレスがたまりましたから！」

### **Hatch** について

**Hatch** では、「車がどのように産まれるか」というファビアン・エーフナーの解釈を見せている。最初の 2 枚のイメージはフェラーリ 250 GTO (1962) <こちらにも詳細なスケールモデル> がその殻を打ち破っている。そして 3 枚目の写真にはまだ産まれていない"卵"の中に空っぽになった殻が見える。

ファビアンはまず、ラテックスを使ってモデルカーから型を取るところから始めた。彼はこの型に石膏の薄い層を重ね殻を作った。次のステップを実行するためにこのような型が無数に作成された。次のステップ、すなわち、車に向けて殻を砕き、車が殻を打ち破った瞬間を作るためだ。このステップは納得のいく結果が得られるまで何十回となく繰り返された。

殻がモデルに当たる、この極めて限られた瞬間を捉えるために、ファビアンはマイクをカメラの Hasselblad H4D とフラッシュに取り付けた。こうすることで、殻が車の表面に接触するたびにマイクがそのインパルスを捉え、フラッシュとカメラのシャッターをトリガーする。

自動車を生あるもの、母体に宿った息をする生命体と解釈することは、車の概念にかなりのひねりを効かせている。赤ん坊を運ぶコウノトリのように、**Hatch** は自動車の誕生する瞬間を捉えたというわけだ。

### **ファビアン・エーフナーの経歴**

ファビアン・エーフナーは 1984 年、スイスに生まれた。芸術一家に育った彼は、その後、芸術学校へと進み、製品デザインの学位を取得した。

14 歳のとき、ファビアンはハロルド・エジャートンの弾丸がりんごを打ち抜く瞬間を収めた写真に出会う。これが彼を最初にカメラに向かわせるきっかけとなった。

「僕はかなり幼いころから、色々な種類のアートに触れてきました」彼は言う。「結局、自分の興味が向かった先が写真だったのです。」

でも、古くからある写真ではなかった...

ファビアンは、アートと科学の融合に傾倒する。ファイバーガラスのランプと、コーンスターチを満たした風船を破裂させて作った羽毛が綿あめのように立ちのぼる「星雲」の美しい写真を撮った。スピーカーの音波に反応して変化する色の結晶、管にペンキを流し込むことで強磁性流体の作り出す模様を驚異的に捉えた写真、求心力によって形成された無数の色が踊るカラフルな写真などを撮影した。

「僕は目に見ることのできない現象を詩的に"見せる"ことに挑戦しています。」一息おいて彼は続ける、「そのため、見る人たちをある一瞬に留め、僕たちの周りを取り巻く不思議な世界をじっくりと味わってもらいます。」

「僕を虜にするのは僕の周りを取り巻くこの世界です。科学のありとあらゆる分野に深い興味を持っています。何か新しいテーマを始めるとき、最終的な写真がどのようになるかはほとんど予測できません。しばらくは自分なりに模索し、どのようなものかを感じられるようになり、それからしばらくして、写真のアイデアが浮かびます。」

ファビアンはスイスのチューリッヒから 40 分ほどのアールラウにフォトスタジオを構えている。彼の作品の販売は世界中でプライベートな直販に限定されている。彼は広告キャンペーンやアートプロジェクトにおいて著名な国際ブランドに携わってきた。その中には、[500px.com](https://www.500px.com) の彼のページで見ることのできるフリープロジェクトも含まれる。

ファビアンは最近、[TED Talk](https://www.ted.com) の中で、広める価値のあるさまざまなアイデアを対象とした非営利活動の一環として、彼のアイデアとアート作品についてのプレゼンを行った。過去 2 年間、彼の評判は着実に上がっている。

